

# 社会政策学会 Newsletter

- ◇学会本部 大分大学 経済学部 石井まこと研究室  
URL : <http://jasps.org> TEL : 097-554-7698 E-mail : mak@cc.oita-u.ac.jp
- ◇編集・発行 石井まこと(代表幹事) 榎一江・岩永理恵(Newsletter 担当幹事) 大西祥恵(事務局長)
- ◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2 丁目 39-2 大住ビル 401  
㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター  
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp

## 【目次】

1. 第 144 回(2022 年度春季)大会のお知らせ・大会実行委員会からのご挨拶
2. 第 145 回大会(2022 年度秋季)大会実行委員会からのお知らせ
3. 第 145 回大会(2022 年度秋季)大会の開催予告および報告募集
4. 第 143 回(2021 年度秋季)大会報告
5. 第 143 回(2021 年度秋季)大会会計報告
6. 2020-2022 年期第 13 回幹事会議事録
7. 2022-2024 年期第 1 回幹事会準備会報告
8. ウクライナ情勢に関する代表幹事声明
9. 学会事務センターの変更
10. 承認された新入会員

## 1. 第 144 回(2022 年度春季)大会のお知らせ・大会実行委員会からのご挨拶

社会政策学会 144 回大会は、2022 年 5 月 14 日(土)と 5 月 15 日(日)にオンライン形式で開催されます。開催校は名古屋大学でお引き受けしました。学会の妙味は休憩時間や懇親会での偶然の出会いや学問的対話にこそあると思いますので、会場で皆様と直接お目にかかれないのは本当に残念です。しかしオンラインでも、充実した報告と討論だけでなく、休憩時間や懇親会の対話がなるべく実現できるように工夫しますので、若手会員をはじめ、多くの方々に御参加いただければ幸いです。

ところで名古屋大学は、1871 年に石井隆庵、伊藤圭介、中島三伯(彼らは尾張藩医として同僚でした)の建議によって設立された「仮病院・仮学校」を起源としています。このうち石井と伊藤は(伊藤の兄・大河内存真とともに)嘉永年間に当地で種痘を始めた蘭方医で、漢

方医に国賊と罵られても接種を続けました。その意味で、名古屋大学は感染症への社会政策的対応から生まれたとも言えます。一方、社会政策学会との関わりでは、1950 年の戦後再建時に、福田徳三の孫弟子にあたる美濃口時次郎・経済学部教授が発起人に名を列ねています。その後、第 26 回大会(1962 年 11 月、共通論題「低所得労働者の諸問題」と第 54 回大会(1977 年 5 月、共通論題「戦後体制と労資関係」)の開催校を引き受けていますが、今回はなんと 45 年ぶりということになります。現在は経済学研究科の福澤直樹会員(ドイツ社会政策史)、人文学研究科の新井美佐子会員(ジェンダー社会政策)、および環境学研究科の上村(比較社会政策)が、それぞれ社会政策の研究教育に当たっています。

今回の共通論題「2050 年への社会政策—環境と社会の持続可能性を求めて」には、環境学研究科に在籍する上村の日ごろの思いが込められています。環境問題は目下の緊急課題ですが、だからと言ってその他の社会課題を忘れてよいわけではありません。環境保護と社会正義をいかに両立させるか。世紀後半に向けた社会政策の課題の一つはそこにあります。本大会における活発な討論が、2050 年の会員の記憶に残るものとなることを願っています。

(第 144 回大会実行委員長 上村泰裕)

## 2. 第 145 回大会(2022 年度秋季)大会実行委員会からのお知らせ

社会政策学会第 145 回大会は、2022 年 10 月 8 日(土)と 9 日(日)の両日に、日本福祉大学東海キャンパスで開催される予定です。法政大学で開催された第 139 回大

会を最後にオンライン開催が続いていましたが、3年ぶりに対面による開催を予定しています。オンライン学会にも時間や場所の制約を受けないといった良さがありましたが、プログラムの合間での参加者同士の直接的な交流など対面開催でしか味わえない大会の醍醐味に飢えている会員も多いことと思います。久しぶりのリアル大会により、臨場感あふれる白熱した議論が交わされるよう、開催校としても精一杯サポートさせていただき所存です。とはいえ、日々変化するパンデミックの動向は開催直前まで先行き不透明です。なんとか予定通りに対面開催ができるまで感染状況が収束していることを願うばかりです。

本大会では、自由論題、テーマ別分科会、書評分科会のほか、2日目に「コロナ禍の労働と社会政策——労働者の生活を支える政策とは（仮）」をテーマにした共通論題が予定されています。パンデミックが労働者の生活に及ぼした影響を改めて確認しつつ、ポストコロナに向けた社会政策の課題を考える機会になることを期待しています。

日本福祉大学は、多くの会員を擁しているものの大会開催校を引き受けるのは初めてです。歴史ある社会政策学会の大会を本学で開催できることを光栄に思いつつ、開催校としての経験やノウハウがなく、しかもウィズコロナの中での久しぶりの対面開催ということもあって、実行委員会メンバーは少々緊張しておりますがどうぞよろしくをお願いします。

大会会場となる東海キャンパスは、知多半島北部に位置し愛知県の産業集積地である中京工業地帯のコンピナートが眼前に広がります。知多半島には、陶器の大生産地である常滑市や醸造業が盛んな半田市など魅力ある町も多く、海の幸も豊富です。お時間があればぜひ足をお運びください。キャンパス最寄りの名古屋鉄道「太田川」駅までは、名古屋駅からも中部セントレア空港からも20分程度でアクセス可能で、全国から会員を迎えるに相応しい場所にあります。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(第145回大会実行委員会 山田壮志郎)

### 3. 第145回大会(2022年度秋季)大会の開催予告および報告募集

第145回大会は以下のように開催いたします。

日時：2022年10月8日(土)～10月9日(日)

会場：日本福祉大学東海キャンパス

\*対面開催を予定していますが、コロナの状況によって、オンライン開催に変更することがあります。また、キャンパスも変更の可能性があります。変更になった場合は別途お知らせします。

■10月8日(土) 自由論題、テーマ別分科会

■10月9日(日) 書評分科会、自由論題、テーマ別分科会、共通論題「コロナ禍の労働と社会政策——労働者の生活を支える政策とは（仮）」

●座長：禿あや美 会員(跡見学園女子大学)

●報告者：

①菅沼 隆 会員(立教大学)

②高見具広 非会員(JILPT)

③服部良子 会員(大阪市立大学)

④山崎 憲 会員(明治大学)

\*自由論題報告、テーマ別分科会の募集日程は以下のとおりです。

・募集案内の告知 2022年4月11日(月)

・募集開始 2022年5月20日(金)

・募集締め切り 2021年6月24日(金)

\*\*フルペーパー・ファイルの提出期間は9月12日(月)～9月19日(月)を予定しています。締切の厳守をお願いいたします。

(秋季大会企画委員会 金井 郁・水野有香)

### 4. 第143回(2021年度秋季)大会報告

この大会は半世紀ぶりに福島大学を開催校とし、福島大学に在籍する丹治和輝会員、三家本里美会員のほか、東北部会の渡部あさみ会員(岩手大学)、秋季大会企画委員会の金井郁委員長、水野有香副委員長、石井まこと代表幹事と島中亨幹事のご参加を得て、オンライン開催実行委員会が組織されました。まずは文頭にお名前を記して実行委員会のみなさまのご尽力に対して衷心より謝意を表します。

大会は2021年10月16日(土)・17日(日)にオンラインで開催し、18日(月)には福島県の東京電力福島第1原子力発電所と同廃炉資料館の現地に赴いて大会エクスカージョンを実施しました。

\*

2019年の2月に埋橋孝文前代表幹事から開催の打診を受けた時にはいうまでもなく対面開催を前提にしています。こちらでは教務課と入試課に根回しをして、教室をおさえて入試の日程を確認したうえで引き受けたのでした。結果的には開催半年前2021年4月の幹事会においてオンライン開催とすることが決定し、それからほどなく上記のような実行委員会体制が確認されましたから、幹事会と企画委員会のみなさまには開催までの半年間にわたってずいぶん助けて頂きました。

第140回の東京都立大学のみなさまが急遽決まったオンライン開催への対応に相当なご苦勞をされたことに比べると、第143回大会の私たちはながく様子をみながら少しずつ準備をしていられたので、「両面对応」の心づもりができていたぶん、とても楽だったと思います。

なお、ここから得られた教訓は「対面開催であれオンライン開催であれ、会員数の多くない大学では開催の受諾は避けにくいなら早い方がいい。覚悟を決めてゆっくり準備できる」ということです。いま多くの大学では「場所貸し商売」の都合もあってあまり早いうちからの教室予約ができないという悩みはありますけれども、福島大学の教務システムは32ヶ月前の教室大量予約を内々に受け付けてくれました。大学での労働組合活動を通じて職員と仲良くしておくことが大事だということもあらためて感じました。とはいえ、福島大学での社会政策学会開催がまたあるとしたら、それは再び半世紀後の2070年ごろの予定です（非公式声明）。

\*

17日（日）午後の共通論題のテーマは「歴史研究からみる労働と生活の規範形成——〈働きかた〉〈暮らしぶり〉はどのように作られてきたか」でした。16日（土）にはテーマ別分科会6セッション、自由論題報告18本（6セッション）が、17日午前には書評分科会4セッションが配置されました。企画委員会のご配慮が活きたバランスのよいプログラム構成と時間割だったと感じました。

Google Formを通じて実行委員会が把握する限りで、参加申込数は477件（会員335件、非会員142件）となりました。おかげさまで大きなトラブルもなく開催できましたこと、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。セッションのミーティングIDを誤記したり、そのほかちょこちょこミスをしたり、むしろトラブルが起きていたとしたらその原因の多くは熊沢にありました。



共通論題の配信の現場。



東京電力福島第1原発、視察第1班。1～4号機建屋山側高台で。



視察第2班。背景は2号機と3号機の建屋。



水素爆発後の1号機建屋上部の瓦礫。2021年10月18日現在。



\*

いくつか、新しいことも含めて、特徴的な点を報告に記しておきます。まず、これに先立つ3つの大会に引き続いてのオンライン開催ではありましたが、エクスカージョンの参加者を中心に、今回は遠くから福島に来て運営に携わってくださった方々がおられました。そのため、ごく部分的にはありましたが、「ハイブリッド開催」のような楽しい時間をもつことができました。いくつかのセッションは座長やホストが福島大学や二本松の岳温泉に在って開かれていましたし、共通論題は福島大学経済経営学類大会議室において共聴のかたちを採ることができました。

また、ヨーロッパから3名の報告者を迎えた国際交流委員会によるテーマ別分科会は、Zoomの言語通訳機能を使ったうえで、時差を考慮して、臨時総会終了後の18時からの開始とされました。これは国際交流委員会と企画委員会からのご要望に沿った方法でした。オンライン大会ならではの新しい試みでもありますが、事情によっては今後ともあり得る形式かもしれません。

\*

そして、熊沢が認識する限りでは第113回大会(大分大学)における新日鐵大分製鐵所以来、30大会ぶりの大会エクスカージョンを開催することができました。大会じたいがコロナ禍のオンライン開催であり、また法令による保安規制が著しく強い施設への学術団体による視察であるという高いハードルがありました。みなさまのご理解とご協力によって実現できました。おかげさまで35名のご参加がありました。社会政策学会員のみなさまとの「フクイチ視察」は福島での大会開催を引き受けた時から「絶対にやりたいこと」でもありました。ご参加の多くのみなさまは遠来で、そして前泊か後泊のいずれかをお願いせざるを得ない日程でしたので、バス代はなんとか参加者から徴収せずに済むように、まずは自治体からのコンベンション助成を検討しました。しかし、大会そのものがオンラインではその方法は採れませんでした。安くはなかったバスの借り上げ費用は、石井代表幹事や大西祥恵事務局長が快くお認め下さったので、大会運営費の一部として学会の予算から賄われました。その点も、あらためて御礼申し上げます。

\*

なお第143回大会期間中の会員の接触や交流による

感染・クラスターの発生は報告されていません。

(第143回大会実行委員会 熊沢 透)

## 5. 第143回(2021年度秋季)大会会計報告

収入: 対面開催の大会と違い、大会参加費、懇親会費、昼食代を徴収しておりませんので、大会事務局として直接収納したお金はありません。

支出: 以下の費目について、熊沢が私金立替のうえ信憑書類(領収書)を付して、もしくは請求書を付して学会事務局に請求、すでに全額の精算手続きがなされています。

- 1) 人件費(福島大学経済経営学類生1名雇用の日当)  
¥10,000 (@¥1,250/時間×8時間)
- 2) 昼食代(2021年10月17日実行委員会、運営担当者分)  
¥7,180 (@ ¥1,436/個×5個, 税込み)
- 3) Zoomアカウント料(11アカウント、2ヶ月)  
¥ 74,140 (@¥37,070/月×2ヶ月, 税込み)
- 4) エクスカージョン借り上げバス代  
¥128,340 (税込み)
- 5) ACプランニングへの支払い(下記①+②-③)  
¥480,882
  - ① ACプランニングからの請求(プログラム編集調整手数料、通信費など) ¥165,550 (税込み)
  - ② ACプランニングの立替払い精算(プログラム1,100部の印刷製本費、同発送費など) ¥396,332
  - ③ ACプランニングへの預金(プログラムへの広告掲載料) ¥81,000

上記1)~5)の合計、つまり社会政策学会としての第143回大会の支出総額 ¥700,542

(第143回大会実行委員会 熊沢 透)

## 6. 2020-2022 年 第13 回 幹事会議事録

日程: 2022年2月11日(金) 13:00~16:20

場所: Zoom 開催

出席: 石井、石黒、伊藤、岩永、禹、榎、大西、鬼丸、金井、金子、上村、熊沢、朱、菅沼、杉田、田中、布川、藤原、水野、森(詩)、森(周)

欠席: 猪飼、首藤、所、畠中、兵頭、松本、吉村

#### (1) 新入会員の承認および今年度退会者の報告

大西事務局長より、8名の入会申請があったことが報告され、審議の結果、8名の入会が承認された。なお、生年月日を記入していない申請書については原則として記入してもらうこと、本日までに到着分の入会申請についてはメール審議を行うことが確認された(1名追加承認)。また、今年度退会者6人について報告があり、意見交換がなされた。

#### (2) 事務センターの移行

石井代表幹事より、ワールドプランニングからガリレオへの事務センター移行について報告された。まず、スケジュールについては、2022年1月に会員データの移行作業を開始し、3月上旬に追加アップデートを行ったうえで、3月末には会員にID/PWを郵送して、4月にリリースする予定であることが報告された。また、会員には2月中に、事務センター移行状況および2022年度分会費は4月以降に請求する旨、周知する予定であることが報告された。なお、新しく導入されるSOLTI(会員情報管理システム)の概要については、連絡先住所、所属機関情報、メールアドレス、その他登録情報の照会および更新や、年会費納入履歴、年会費に関する請求書類(見積書・納品書・請求書)の発行および納付済み年会費の領収書の発行が各自でできるようになること、学会部会の案内・参加登録、学会からのお知らせ・会員向け資料等のダウンロード等も可能になることが報告された。また、学会誌の編集作業のオンライン化についても、ミネルヴァ書房・(株)ガリレオ・編集委員会・事務局の4者で作業分担の協議を行うことが報告された。残された課題として、ホームページや大会実行委員会、広報委員会との連携については引き続き検討していく。菅沼幹事より、学会資産の管理について質問があり、代表幹事名義の口座を開設して学会資産を移し、会費納入用の郵便振替口座に加え、日常的な支払いには運用口座を設けて(株)ガリレオが管理する方向で調整中であることが報告された。

#### (3) 大会若手研究者優秀賞の選考委員

石井代表幹事より、大会若手研究者優秀賞の選考委員として、田中洋子、吉村臨兵、布川日佐史、菅沼隆会員に顧問会員を加えた4ないし5人に委嘱したいとの提案があり、承認された。なお、菅沼会員は選考対象

者の関係者で今回の委嘱ができなくなり、必要があれば追加の人選を行うこと、4月中旬までに選考委員の決定および引き継ぎを行うことが確認された。

#### (4) ニュースレターの発行について

榎幹事より、2022年度秋季大会の募集を掲載するNL110号について、開催校の都合により4月以降に募集を開始する秋季大会企画委員会の方針をうけ、刊行時期を遅らせることが報告された。

#### (5) 地方部会の案内について

石井代表幹事より、地方部会の活性化に向け、要望があれば会員メーリングリストで地方部会のお知らせを掲載する方針を決めた2021年4月の幹事会議事録が紹介され、その方針が再確認された。

#### (6) 経費請求についての引継事項

大西事務局長より、「経費請求の過程」と「請求書類(経費請求書・振込請求書)」について現状の説明があり、次期幹事会で整理することが確認された。

#### (7) 学会誌編集委員会

鬼丸委員長より、編集状況、投稿論文の応募状況が報告された。なお、大会若手研究者優秀賞受賞論文については、掲載時期が予定通りにはいかないが、論文の完成を待って優先的に掲載する方針であることが確認された。

#### (8) 春季大会企画委員会

上村委員長より、共通論題企画について、第1回準備会を12月12日に開催し、第2回準備会を3月22日にオンラインで開催予定であること、大会時の同時通訳は業者に依頼済であることが報告された。また、大会実行委員会としては、Zoomに関する準備を五十畑会員が担当し、秋保親成会員にサポートを依頼したことが報告された。また、プログラム郵送や会員の参加登録を廃止する計画が提案されたが、検討の結果、従来通り実施する方向で調整することになった。なお、大会時には、SpatialChatでアフターセッションを設定し、出版社の書籍展示を行うことも検討中との報告があった。

伊藤副委員長より、春季大会応募状況について自由論題15本、テーマ別分科会7本の申込があったことが報告され、審議の結果、会費納入状況を確認の上採択

することが承認された。あわせて、大会プログラム案が提案され、承認された。

#### (9) 秋季大会企画委員会

金井委員長より、第145回大会について10月8日(土)、9日(日)に日本福祉大学で対面開催を軸に準備中だが、正式決定は3月下旬から4月上旬になる見込みであること、また、オンライン開催とすることも視野に入れる必要があるため、報告の募集は4月上旬以降に開始する予定であることが報告された。なお、第145回応募要項については、Googleフォームでの申請に変更する方針が確認された。また、開催校の意向で懇親会を行わない方針が報告されたが、幹事会として可能であれば開催してほしいとの要望を伝えることにした。

また、共通論題については、「コロナ禍の労働と社会政策—労働者の生活を支える政策とは」をテーマとし、座長・コメンテーターを禿あや美会員、第1報告を菅沼隆会員、第2報告を高見具広氏(非会員)、第3報告を服部良子会員、第4報告を山崎憲会員に依頼することが提案され、承認された。なお、書評分科会のあり方について秋季大会企画委員会で議論した結果、基本的には著者・評者を呼んで書評分科会を組むという従来の方法を維持するが、応募依頼時に注意喚起を促す方針であることが報告された。この点について、「社会政策学会倫理綱領」の遵守を促すなど、一定の対応を取りながら、従来通りのやり方を継続することが確認された。

#### (10) 広報委員会

金子委員長より、地方部会の活動を会員メーリングリストで流す方針に関連して、地方部会の位置づけについて次期幹事会で検討してほしいとの要望があった。

#### (11) 国際交流委員会

朱委員長より、1月31日締め切りの国際学会報告の助成と海外研究者招へい助成には、どちらも応募がなかったことが報告された。また、日本経済学会連合による2022年度の①外国人学者招聘滞日補助、②国際会議派遣補助、③学会会合費補助の募集については、現在、募集中であることが報告された。

#### (12) 社会政策関連学会協議会

菅沼幹事より、社会政策学会関連協議会を通じて依

頼した学術会議公開シンポジウム「孤独・孤立と『つながり』の再生」(包摂的社会政策に関する多角的検討分科会主催、日時:2022年4月23日(土)もしくは4月24日(日)の13:00(調整中)、オンライン開催)の後援に対する謝辞があった。

#### (13) 日本経済学会連合

榎幹事より、創設70周年記念事業への参加について、日本経済学会連合アカデミック・チャンネルに石井代表幹事作成の動画を提供することが報告された。また、大西事務局長より、英文年報の執筆依頼が来ていることが報告され、2023年12月号(2023年7月メ切)に掲載希望を出し、執筆を次期幹事会の広報委員会副委員長(英文ニューズレター担当)に依頼することが確認された。

#### (14) 重点事業担当

金子幹事より、育成フォーラム担当者から次期以降がどうなるのかといった質問や担当幹事を置いてほしいとの要望が出ていることが報告され、次期に引き継ぐことが確認された。

#### (15) 次回以降の大会開催校

石井代表幹事より、次回以降の大会開催校について、第144回(春季)が名古屋大学(オンライン)(5月14・15日)(実行委員長:上村会員)、第145回(秋季)が日本福祉大学(10月8・9日)(実行委員長:山田会員)、第146回(春季)が立教大学(実行委員長:菅沼会員)、第147回(秋季)が立命館大学(実行委員長:櫻井会員)であることが報告された。

#### (16) その他

上村幹事より、名誉会員の幹事会推薦方法・基準についての継続審議の問い合わせがなされ、次回幹事会で審議することとした。なお、現時点では従来通りの方で検討することとし、対象者リストを幹事で閲覧することとした。

次回幹事会は、第14回を2022年5月13日(金)15:00~18:00にハイブリッド開催予定(名大)、第15回を2022年5月14日(土)11:40~12:40にハイブリッド開催予定(名大)であることが確認された。

## 7. 2022-2024年期中第1回幹事会準備会報告

日時：2020年2月11日（金）16：30～17：15

場所：Zoom

出席：阿部彩、石井まこと、伊藤大一、岩永理恵、  
禹宗杭、垣田裕介、金井郁、金子良事、熊沢透、  
上村泰裕、金成垣、菅沼隆、田中聡子、水野有香、  
森詩恵、森周子、藤原千沙  
欠席：所道彦、首藤若菜、松本伊智朗

議長を代表幹事の石井が行い、自己紹介と選出幹事の互選を行い、次期代表幹事として、禹宗杭会員を選出した。今回は4月23日（土）10時からZoomにて開催することを決めて散会した。

## 8. ウクライナ情勢に関する代表幹事声明

学会ホームページに記載しておりますように2022年3月17日付けで、下記代表幹事声明を日英文で発出しました。

### ロシア連邦によるウクライナへの侵略行為に対する 代表幹事声明

社会政策学会・代表幹事 石井まこと

ロシア連邦によるウクライナへの侵略行為を厳しく非難します。この侵略により、兵士だけではなく、市民に多数の犠牲者が発生し、その数は増大の一途を辿っています。日常の生活が破壊され、奪われており、特に、社会的支援が必要な子ども、高齢者、障がい者などの生命が深刻に脅かされています。今回の侵略行為を絶対に許すことはできません。ロシア大統領プーチン氏に対し、直ちに停戦とロシア軍の撤退を行うことを強く要求します。

## 10. 承認された新入会員（事務局）

|       |                  |                          |
|-------|------------------|--------------------------|
| ①中村天江 | 連合総合生活開発研究所      | 労働関係・労働経済                |
| ②平川則男 | 連合総合生活開発研究所      | 社会保障・社会福祉                |
| ③佐藤愛佳 | 同志社大学大学院社会学研究科   | 社会保障・社会福祉                |
| ④中村祥司 | 東京大学大学院経済学研究科    | 社会保障・社会福祉                |
| ⑤松崎貴子 | 成蹊大学大学院文学研究科     | 労使関係・労働経済、ジェンダー・女性       |
| ⑥佐藤雅子 | 早稲田大学人間総合研究センター  | 社会保障・社会福祉                |
| ⑦松原祥  | 東京都立大学大学院人文科学研究科 | 社会保障・社会福祉                |
| ⑧馬文博  | 大阪経済大学大学院経済学研究科  | 社会保障・社会福祉                |
| ⑨熊谷良介 | 北海道大学大学院教育学院     | 社会保障・社会福祉、ジェンダー・女性、生活・家族 |

## 9. 学会事務センターの変更

学会事務センターについて、学会メーリングリストでもご案内しました通り、2022年4月より長年お世話になりました(株)ワールドプランニング (<http://worldpl.com/>) から、複数の学会代行業者(株)ガリレオ (<https://www.galileo.co.jp/>) に変更しました。

幹事会の基本方針として、学会の電子化への対応を進めるためであり、(株)ワールドプランニングとも協議を行い変更いたしました。今後、会費や会員データ管理は、新事務センターである(株)ガリレオから届きますので、よろしくお願いたします。

(株)ワールドプランニングの方々には1999年の伊藤セツ代表幹事の時代から長年お世話になって参りました。学会として、長年学会運営を支えていただいたことに感謝の意を表します。

会員のみなさまには、(株)ガリレオが提供する SOLT I (Society Operations Leading Technology and Integrity) と呼ばれる会員情報管理システムにより、ホームページ上で、会費納入状況、学会誌発送状況、会員データを随時確認できるようになります。閲覧のためには個人IDとパスワードが必要ですので、4月中旬に2022年度の会費請求とあわせて郵送しますので、ご確認よろしくお願いたします。

### 新事務センター連絡先

〒170-0013

東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401

(株)ガリレオ 学会業務情報センター内

社会政策学会事務センター

電話：03-5981-9824 FAX：03-5981-9852

e-mail：g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp